

だんだん便り

第29号

2020年3月10日

一般社団法人だんだん会

408-0035 山梨県北杜市長坂町夏秋 918-5

- ・法人本部 0551-45-9566
- ・地域看護センターあんあん 0551-30-7505
- ・定期巡回てくてく 24 0551-30-7787
- ・オレンジサロンわいわい白州・長坂 0551-45-9566
- ・グループホームわいわい白州 0551-30-7566

408-0315 山梨県北杜市白州町白須 1023

- ・わがままハウス山吹 0551-45-6323

408-0044 北杜市小淵沢町 10123-2



みつまた（赤花）

女の子の髪かざりのような丸くて赤い花。
この花に出会ったのは我が家の庭で初めて咲いた時。
あまりにかわいいので何度もカメラを向けてしまいました。
どの枝も必ずみつまたに分かれており、その繊維は強く、
和紙として使われていることがよく解ります。
赤い花はあまりみられないと聞き、紹介することにしました。

盆出 靖子（北杜市小淵沢在住）

グループホームわいわい白州



One page of memories



季節は廻る度に沢山の思い出。皆様心のアルバムに記録されております。ご家族の皆様想像してみてください。写真からは声は出てきませんが皆様のこの笑顔から出ているストーリーを！何を思い、何を感じて笑ったのか、想像するだけで見てる方も笑ってしまいそうですね。今日も皆様には新たな思い出がまた一ページ追加されていくようにご支援していきます。

職員 湯舟康弘

オレンジサロンわいわい白州・長坂・こぶち

暦の上では春を迎えました、今年は「暖冬」と言われていますが、やはり2月は寒中です。

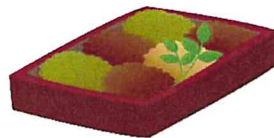
サロンも部屋の中で、みんなで賑やかに過ごしてきました。



いつも紹介する川柳、日々の生活での気づきや健康面での留意点も含めて「川柳講話」は皆さん笑いながら聞いていらっしゃいます。

また、唱歌から流行歌、マイクも登場し熱い時間を過ごしています。

左の写真は、新聞紙を折って「エコバックづくり」・・・非常用品もつくれるとあって、「驚異の新聞紙!」「侮るなかれ新聞紙!」と皆さんで絶賛しながら口と手を動かしていました。



わいわい白州サロン

仏説魔訶般若波羅密多心經

.....

参加者の皆様から「写經」の話題が出ました。

「写經」をされているボランティアの方を中心に、気持ちを落ち着かせ、脳トレにもなるからと一斉に挑戦です。

肩に力が入ってしまいましたが

.....

「般若心經」は宗派を越えて、唱えやすく、耳障りもなく、心が浄化されます!



報告です!

2月1日 認知症 café からの出発「フォーラム」(朝日新聞社厚生文化事業団主催)に参加してまいりました。「ともにつくる認知症カフェ開設助成」を受けて開設した当サロン。

「市民が主役のまちづくり」を目指し、これからも市民と協働し、しっかり継続していこうと気持ちを新たにしてきました。

わたしたちのサロンでは、「どんな人も共生できることを目的に、関わる人の尊厳と人柄を大事に、分け隔てなく、でも特別に、皆が一緒になって同じ時間を共有できるカフェを開催していきます。」

わがままハウス山吹 (支援付き共生すまい)

今年は暖冬で、インフルエンザの猛威こそありませんでしたが、新型コロナウイルスに世間は大きな騒ぎになっています。“わがままハウス山吹”でも皆さんの関心は高く、外出後の手洗い等細心の注意を払い、今のところ皆さんはお元気にお過ごしです。

今回は“わがままハウス山吹”の介護職、通称“Y 勤スタッフ”“のメンバーをご紹介します。「就労するきっかけ」、「意気込み」を語っていただきました。

足立 かおり

* 阪神大震災時の被災動物の保護がきっかけで 25 年前に愛知県から移住。宮崎理事長の熱い思い、「だんだん会」スタッフの真摯な姿に触れたことがきっかけです。

* 個性豊かな入居者の皆様の生き方を学び、自分自身の個性も生かし、人として成長をしたいと考えています。

小林 登紀恵

* 自宅の近くでもあったので、即・・・。
* いろいろな所で介護の仕事をしてきたけれど、“わがままハウス山吹”は目指すところがちょっと違う。頭を切り替える事に戸惑っていますが、今は複雑には考えず、とにかく楽しくやっていきたいなあ、と思っています。

石川 由美子

* 日頃から、老後の生活は「介護保険だけでは心配だなあ」と思っていたし、自身の今後も考えて、ぜひ“わがままハウス山吹”の実現、展開を見届けたいと考え、スタッフとして参加しました。

* 幸せになるために生まれてきた、と思っています。入居者の皆様やスタッフの方々が幸福感で満たされるように関わっていきたいと考えています。

岡本 静佳

* きっかけは、“オレンジサロン(認知症予防カフェ)”にボランティアで関わっていたので、自然な流れで・・・。
人とかかわる事が好きだし、高齢のお袋の姿と重なるし・・・。

* 生きる信条は“あるがままを受け入れる”です。どんな場面が起きようと受け入れ、楽しんじゃいますよ！



さむい！

吉田 久美子

* 介護が必要になった母親の為、介護施設を色々見てきたけど、残念ながら自分の親に「ここで暮らしてほしい」と思う所には出会えなかった。そんな訳で“高齢者のシェアハウス”というわがままハウス山吹の構想に関心があり、関わってみようと思いました。

* 入居者の皆さんはもちろん、関わる私たちも決して若くはありません。人生経験豊かな皆さんから良くも悪くも日々たくさんの事を学んでいます。

「山吹で暮らせて良かった!」と思っていただけるようお手伝いして行きたいと考えています。

Information・報告

グループホームわいわい白州 運営推進会議

今年度も隔月の定期で運営推進会議を開催してまいりました。
運営推進会議の構成メンバーは利用者さんと2名のご家族の方、地元地区の区長さん、民生児童委員2名と保険者の方々と、今年度は12月に民生委員の改選があり2名の方が交代されました。

この中で、職員体制や入居者の皆様の普段のご様子（小旅行やレク活動なども）、また事故（インシデント含む）の報告と対策、運営への要望や意見交換を行っていますが、入居から2年が経過し、介護認定更新で介護度が高くなるなどの変化も報告、変動のあった入退去などのご様子もお伝えしています。
地域のことは、ホームから出た県道に「横断歩道」が設置される事が区長さんより報告されました。

定期巡回・てくてく24 介護・医療連携推進会議

出席者:12名 まずは、事業状況報告について

(1)事業開始利用者数:66名 現在利用者数:22名

2019年4月より2020年2月20日利用者数:37名

(内15名終了:死亡5名 入院3名 サービス変更3名 入所2名 中止2名)

(2)男性11名 女性26名

(3)事業運営はなかなか難しい。広域のため一人の職員の一日の走行距離100キロと移動時間が長い、利用者が増えてきたため少しは効率良く訪問できるようになってきた。利用者数に対して職員体制を整えていく。

<意見交換>

- ・このシステムがないと高齢者で独居の方が住み慣れた地域で暮らしていく事は不可能。人材も含めて大変ですが続けていって欲しい。ケアマネとしてもっと協力していきたいです。
- ・一体型のため医療依存度の高い人に一日何回も訪問してもらえ、また限度額で収まるので助かるが、職員が疲弊しないのか心配です。
- ・101才の利用者さんが他県にお墓参りしたいとの希望を、有償ボランティアでてくてく職員が同伴し実現できたので感謝しています。

- ・独居を続けたい方や最後まで家にいたい終末期の方を依頼したいが、要支援のため区変中に終末期になってしまい利用できない。要支援の高齢者ご夫婦が利用出来ない事が一番困ってる。また介護度がない一歩手前の人はどうしたらよいのか。
など多数の意見がだされました。



地域看護物語

時には思わぬことが起こります！

地域看護センターあんあん 浅見玲子

「おはようございます」

玄関でいつものように真知子さん（仮名：77歳）に声をかけましたが、真知子さんは玄関に出てくることはできず奥の部屋で寝込んでいました。“いつもはにこやかに玄関で出迎えてくださるのにどうしたのかな？”と思いつつ、真知子さんに声をかけると、お布団に潜り込んで眉間に皺を寄せてグッと身体に力が入ってしまい、返事が返ってきません。はて？・・・

昨年レビー小体型認知症と診断をうけた真知子さんは、うまくご自分のことを表現することができません。日常生活は同居している長男の和馬さん（仮名）が支援しています。

同居している息子さんに異変！

「どこか具合が悪いですか？お身体を拝見しますよ」

私は、真知子さんの体温を測り、脈拍をとり、血圧を測りました。胸の音もお腹の音も聴診器を当てて確認しますがどこにも異常はありません。

「なにが起きているのかな？」

「あら？今日は息子の和馬さんは？」2日前に訪問に伺ったときにちょっと風邪気味だった和馬さんのことが気になりました。

「真知子さん、和馬さんは今日はどうしましたか？」その時です。

ドドドドー 2階から和馬さんが降りてくる足音。私はびっくりして廊下に出てみると和馬さんがうずくまっているのです！

和馬さんに駆け寄った私は愕きました。顔面蒼白で額は氷のように冷たく・・・。



緊急入院の手配

「いけない！これはプレショック状態だ（ショック状態に陥る直前の状態）」

そう判断して和馬さんのかかりつけの病院の看護師に連絡をとりました。そしてすぐに緊急搬送するようにとの指示。さて誰が同乗するか・・・。そこで近所に暮らすお姉さんに連絡を取り救急車で和馬さんを運んでもらうことにしました。

キーパーソンの体調にも常に配慮

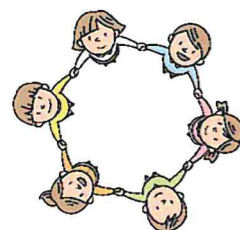
和馬さんは危険な状態でしたが一命を取り止めたと午後にはお姉さんから連絡を受けました。私たちは、真知子さんのキーパーソンである和馬さんが心臓病を患っていて通院していることを伺っていたので今回のような病院との連携もすぐにできました。

幸い和馬さんは、1ヶ月の入院を経て退院なさいました。

家族全体の健やかな暮らし

真知子さんは、前日から風邪をこじらせて具合が悪くなった和馬さんを心配してどうして良いか分からず寝込んでしまっていたのだと思います。和馬さんが退院してからは真知子さんもぐんぐん元気になって落ち着いて暮らすことができるようになりました。

支援者は、利用者さんがどのような人間関係のなかで暮らしているか、そしてキーパーソンとなる方との関係性には特に注目しています。利用者さんの健やかな暮らしを支援することはその方のご家族の健やかさにも注意を払って支援することです。



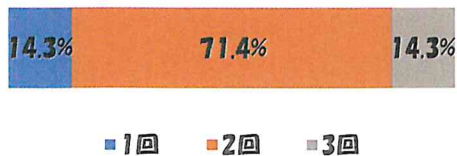
てくてく物語

『数字で見るてくてく24』を2回に分けて(前編、後編)報告します。

前編は、**利用者の概要**を数字で紹介しました。今回は後編で**支援内容**などです。

2020年1月の利用者数は**21名**。

◆一日の訪問回数別利用者の割合



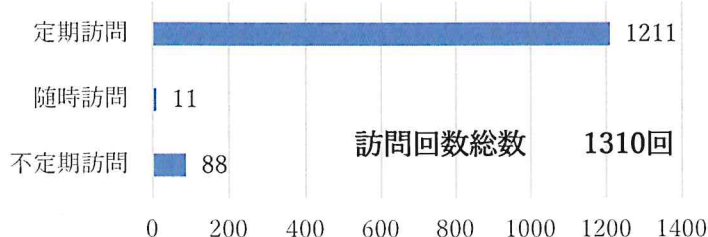
一日2回の訪問の利用者が71.4%と多い。
一日3回の訪問の利用者は14.3%。

◆1回の訪問時間毎の利用者割合



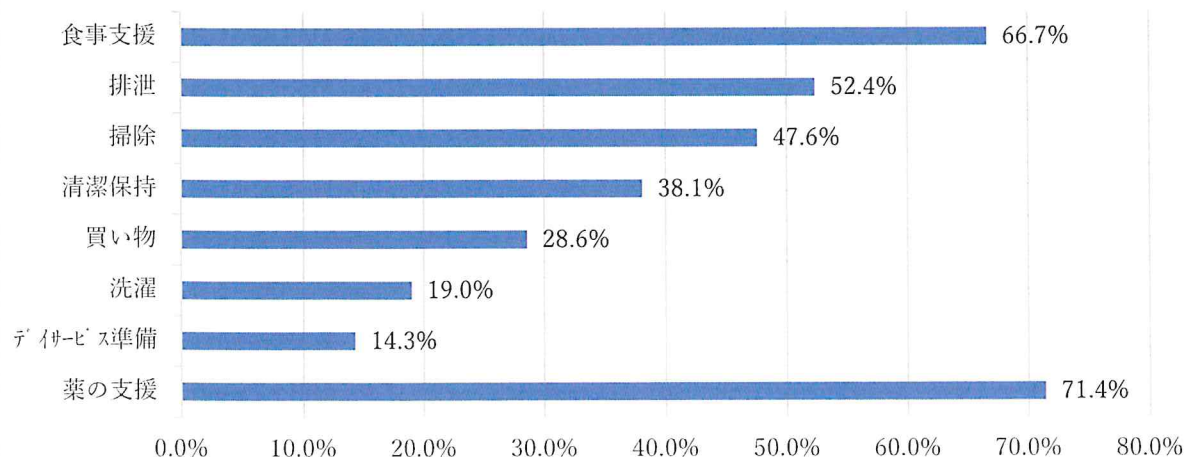
1回の訪問が15分未満の人は1名のみ。
15分～30分の利用者が約半数。
30分～60分の利用者が約半数。

◆訪問の種類別訪問回数



「不定期訪問」とは、短時間の定期訪問ではできない支援（長時間の寝具の洗濯、ていねいな部屋の掃除、入浴など）を空き時間を利用してサービスしています。

◆主なサービス内容の利用者割合



おたがいサロン 2020



2月上旬に、下記の呼びかけ人で呼びかけ、下記のような情報交換会を行いました。

～知り合う情報交換会～

「何かをしたい人」と「そういう人に協力したい人」が知り合う場

北杜市内には志をもって地域住民のために“何か”を実施している人・しようとしている人が多数いるようです。おたがいに知り合う場です。北杜で地域住民のための“何か”を実施したいと考えている人と、北杜の住民のために何かを行う人へ協力をしたいという人が知り合い、情報交換を行い、もしかしたら新しい何かが生まれるかもしれません。

呼びかけ人

おたがいサロン 2020 実行委員会

呼びかけ人代表

佐藤彰啓（ふるさと倶楽部）

呼びかけ人

上野しのぶ（たんぽぽ食堂）

宮崎和加子（一般社団法人だんだん会）

実施方法

- ・当面、1年間実施する。（2020年）
年4回程度（2月・5月・9月・12月ころ）開催
- ・お互いにやっていること・やろうとしていること・やりたいけれどまだできないこと、また協力できることなどを報告しあい語り合う。

呼びかけ対象・参加者について 団体ではなく個人参加

当日の参加者 25名 活気ある情報交換会！

参加者は、こどもたちの居場所を作っている方、会員制で助け合いを行っている方（車で移動、庭の手入れなど）、食堂、介護事業、ガーデニングのプロ、イベント企画のプロ、デザインのプロ、学識経験者など多岐にわたる分野の方々です。

参加者がそれぞれ自己紹介をしながら、今行っていること・困っていること・支援してほしいことなどを話す方と、「こういう支援ならできます」などといろいろです。

その中で「ぜひこういうことをやりたいと思っています。みなさんどうでしょうか」と呼びかける人、「春から古民家と畑を利用して未就学児と親が集える場所作り・自主保育をしたいと思っている」「多世代の方が立ち寄れる居場所作りをしたい」「こういう人を紹介してください」・・・

名刺交換懇親会では「今度一度遊びがてら相談に行きます」「今困っていることについてアイデアや方向性が見えました」「おもしろかったです！ いい出会いがありました」 高い志をもっている方が地域にたくさんいらっしゃる。つながりましょう！